

# 教宣 せぶん

## フトコロの深さ

このホームページのトップに、全損保ホームページと書かれた青いボタンがあります。私たちのホームページからボタンひとつで全損保のホームページにつながります。また、全損保のホームページにもリンクのページがあり、共栄支部、日新支部などの全損保傘下の各支部に交じって、日勤外勤支部の名前も記されており、名前の部分をクリックすれば日勤外勤支部のホームページにアクセスできます。私たちのホームページと全損保のホームページは相互リンクしているわけです。「相互リンク」には、お互いがお互いの存在を認め合い、ともに目標にむかって運動をすすめていきましょうという意味合いがあると思います。

その全損保のリンクページには、「全損保」と関係があったり、関連があったり、また損保産業と関わりの深い産業、行政機関、マスコミなどの名前があり、クリックすればその会社、団体のホームページにつながるようにリンクしています。

そのリンク集の中に「損保労連」という名前があります。名前をクリックしアクセスしてみると、損害保険労働組合連合会のホームページが立ち上がります。「沿革」を見ると、損保労連と全損保が、その昔はひとつの組織だったことがわかります。この辺の話は、私たちの財産訴訟でも登場した全損保の分裂にも関係のある話で、お互いの主張が異なる「デリケート」な部分です。事実、この「沿革」の中にも、損保労連から見た分裂の経緯が記されています。

率直に不思議に思うのは、なぜ全損保のリンク集に損保労連の名前があるのか？ということです。組織分裂を経験し、「裏切った」「裏切られた」という世界があり、私たちと同じように財産問題があり、また、損保労連の「沿革」の中には私たち全損保側から見れば「それは違うだろう」という文言が書かれていたり、運動をすすめる視点や主張が明らかに異なっていたり、そして、損保労連のリンク集には「全損保」の名前は書かれていないにもかかわらずです。「なぜ？」なのでしょう。

個人的な感覚で言えば、全損保のホームページにも「沿革」のページをつくって、損保労連の主張に対抗してこちらから見た時の分裂の経緯を書けばよいものを感じないわけでもありません。相手はリンクさせていないのだから、わざわざこちらがリンク集に名前を載せて相手の存在を知らしめてあげる必要などないではないかと思えます。

もし、地位確認訴訟や財産訴訟、便宜供与問題などの一連のたたかいや運動を、当事者として「深いところ」で経験しなければ、この「個人的な感覚」をずっと持ち続

けたのだと思います。この「なぜ？」に対する答えはみつからなかったと思います。しかし、局面、局面でのたたかいを経験し、このたたかいの方針やこのたたかいをすすめる「指揮官」の考え方に接し、また歴代のこの運動をすすめて来られた先輩たちの話しを聞き、生き方を見るにつけ、「全損保」という組織が、何を大切に、何を守ろうとして、どういうスタンスで運動をすすめているかがよりはっきりと理解できました。そのスタンスで、この「リンク」の問題を考えた時に、「全損保らしい」と思えるようになりました。

私たち全損保という組織は、働くものの生活や雇用をまもるために、一番太く、大きい一線を、経営者との間に引く労働組合です。考え方や運動のすすめ方が違うからと言ってこの組織を去っていった人たちを排除するのではなく、広義で「働く仲間」と考える寛容な労働組合です。大きな目標にむかって歩みをすすめようとしている時に、細かい雑音を意に介さない組織です。

全損保という組織が持つフトコロの深さ、理念の高さに、あらためて敬意と共感と親近感を抱きます。